



上田市議会議員
佐藤のりゆき
佐藤 論 征

後援会報
12月定例会報告

2017年12月定例会号
佐藤のりゆき後援会
発行責任者 森山 和
上田市真田町長 3576-1
TEL 0268-72-5666
FAX 0268-72-2622

上田市議会議員選挙 投票日 平成30年3月25日

佐藤のりゆき ご支援の輪をお広げください 佐藤のりゆきは平成26年の上田市議会議員選挙において初当選させていただいた以来、これまで市民の皆さんのために一生懸命活動してまいりました。平成30年3月25日投票(3月18日告示)の上田市議会議員選挙において、これまでの取り組みを更に進めさせていただくため、なんとしても再度当選させていただきたく、皆様の更なるご支援をいただきたいと存じます。ご親族、お知り合い等ご紹介いただき、更にご支援の輪を広げていただきますようお願い申し上げます。

上田市議会議員選挙投票率

選挙年	区分	当日の有権者数	投票者数	棄権者数	投票率
平成18年	男	62,062人	38,927人	23,135人	62.72%
	女	66,494人	43,506人	22,988人	65.42%
	計	128,556人	82,433人	46,123人	64.12%
平成22年	男	62,090人	38,097人	23,993人	61.36%
	女	66,391人	41,619人	24,772人	62.69%
	計	128,481人	79,716人	48,765人	62.04%
平成26年	男	61,742人	34,946人	26,796人	56.60%
	女	65,818人	37,600人	28,218人	57.13%
	計	127,560人	72,546人	55,014人	56.87%

選挙権年齢が引き下げられ はじめての上田市議会議員選挙

平成27年6月に成立した公職選挙法の改正法により、選挙権年齢が「満20歳以上」から「満18歳以上」に引き下げられました。これにより、国政選挙や地方公共団体の議会の議員や長の選挙等の投票ができ、また、自ら選挙運動(投票依頼など)を行うこともできるようになりました。上田市議会議員一般選挙においては、改正後はじめての選挙となります。一番身近な選挙です。一票では何も変わらないというのは間違いです。一票一票を積み重ねることが大きな力となります。立候補者の政策や選挙制度を正しく理解し、若い世代の皆さんも必ず投票に行きましょう。

投票に行きましょう 上田市議会議員選挙の投票率は改選ごとに減少傾向にあります。近年、人口減少や財政的な理由などから投票所数が減ったことも大きな原因と考えられます。各自治センターなどで期日前投票なども行っておりますので、大切な一票必ず投票に行きましょう。

投票率の傾向として、山間部などの投票所から遠い地域、高齢化率の高い地域などの投票率の低下が目立っております。こうした地域の投票率が低下するということは、山間地域や高齢者の皆さんの声が市政に届かない状況です。

期日前投票 選挙は投票日に投票所で投票することを原則としていますが、この「期日前投票制度」は選挙期日前であっても投票日と同じように投票用紙を直接投票箱に入れて投票することができる制度です。対象となる投票は、従来の不在者投票のうち、名簿登録地の市区町村の選挙管理委員会で行なう投票が対象となります。期日前投票ができる方は、投票日に仕事やレジャー、冠婚葬祭などの用務があるなど、一定の事由に該当すると見込まれる方です。投票できる期間は、投票日の公(告)示日の翌日から投票日の前日までの間です。期日前投票の期間・場所等については、各選挙の都度「広報うえだ」などに掲載されます。

期日前投票所として
予定されている場所
上田市役所東庁舎 2階
丸子地域自治センター
真田地域自治センター
武石地域自治センター
豊殿地域自治センター
塩田地域自治センター
川西地域自治センター
アリオ上田

平成29年12月定例会 平成29年11月27日から12月18日 会期22日間で開会 17議案が提出され可決

市庁舎改修・改築事業 補正予算 5,000万円

市庁舎改修・改築に伴い、現在、北庁舎内にある「上田市上下水道局」の一部の課を真田自治センターに移転します。移転先となる真田地域自治センターの改修に係る経費を計上。

丸子総合保育園建設事業 補正予算 450万円

丸子総合保育園の建設に伴う建設用地測量に係る経費を計上。上田市立丸子中央小学校北側にある現在の「わかさ幼稚園」用地に、「みなみ保育園」、「東内保育園」、「わかさ幼稚園」の3園を統合し、定員120人規模の新保育園を平成32年度中開園に向けて整備。

新エネルギー活用施設設置費補助金 補正予算 1,100万円

「新エネルギー活用施設設置費補助金」は一般家庭の太陽光発電施設設置に対する補助金で、国において平成31年度設置分までの住宅用太陽光発電に対する買取価格の低減スケジュールが示されたことと思われる駆け込み需要が発生したことに伴い、当初予算に不足が生じたことから増額補正。今後、上田市地域新エネルギービジョンの目標達成に向け、さらに普及促進させるために補助対象の拡大を検討することとしている。



地産パワーアップ事業補助金 補正予算 7,970万円余

国の補助金を活用し、大豆の産地化及びブランド化を図るため、信州うえだ農業協同組合が計画している大豆乾燥調製施設導入事業に対し、管内4市町村で大豆収穫量に応じて嵩上げ補助する。

総事業費：1億3,284万円(補助対象事業費1億2,300万円)
補助率：国5/10、市町村2/10(うち上田市負担割合74%)

一般質問

ごみ減量化と資源循環型施設建設に向けた市民の役割について

問 現在、真田自治会と半過自治会で実施している大型処理機による生ごみ堆肥化モデル事業において、利用者へのアンケート並びに利用者と担当職員の対話のなかでごみ減量化に向けた意見はどのようなものがあり、その声を今後どのように活かしていくのか。

答 以前よりも分別を意識するようになった、燃やしていた紙類を分別して資源化するようになったなど、このモデル事業を起点として一人一人のごみ処理に関する意識の高揚が図られたことがアンケート結果から見てとれる。また、モデル事業に参加したことによって燃やせるごみ指定袋の大きさがサイズダウンした、ごみを出す回数が減ったなど、実際にごみの減量に結びつく効果があると思われる。ごみの減量、再資源化については、市民一人一人の日常的な小さな取り組みの積み重ねが市全体の大きな成果につながる。このことから、一人でも多くの市民の意識が高揚し、理解が深まるように、アンケート結果を今後の啓発事業や新たなモデル事業の取り組みに活かしていく。

問 真田自治会における大型処理機による生ごみ堆肥化モデル事業の大型処理機の運用については、処理機の管理についてごみ減量化に対する意識の高い方の貢献が非常に大きい。今後この事業を拡大するのにあたり、これまでの公募だけではなく、ごみ減量アドバイザーなどに相談し、ごみ減量化に対する意識の高い方を選任したうえで事業拡大を図るべきではないか。

答 議員提案のとおり、地域のことをよく知るごみ減量アドバイザーに相談し、ごみの減量や生ごみ処理に熱意と知識を持ったキーマンを見出して設置をお願いするという手法も検討したいと考えている。自治会説明会での周知やアドバイザー等からの情報も活用しながら、今後も生ごみの減量及び堆肥化の推進施策としてモデル事業に取り組んでいく。

問 真田自治会での大型生ごみ処理機の導入に当たっては、母袋市長が連合長である上田地域広域連合で現在進める資源循環型施設建設に向け、建設候補地の皆さんだけの問題ではなく、市民全体、上田市全体の問題と捉え、みずから何かできることはないかと考え、ごみ減量化の取り組みが一助となればという思いから導入を決断したものです。ごみ減量化の取り組みを強めたからといって資源循環型施設建設の問題を抜本的に解決できるものではありませんが、しかしながらこうした市民自らの取り組みや思いは大変大きな力であり、資源循環型施設建設に向け必要なことであると考えます。

また、実際に運用が始まってからは、ごみ減量化に対する意識の改革、地域全体でのごみ処理に対する意識の高揚と理解が深まっていると実感しております。私は、資源循環型施設建設に当たっては、このように上田市全体、全上田市民で意識を高揚することが最も大切なことではないかと考えているところでもあります。真田自治会の大型処理機による生ごみ堆肥化モデル事業を始めたこの思いを資源循環型施設建設対策連絡会、諏訪部自治会、下沖振興組合の皆さんにお伝えすることはできないでしょうか。資源循環型施設建設は上田市全体、全上田市民の問題であることを全市民が認識し、上田市全体、全上田市民で資源循環型施設建設に向き合い、オール上田で向き合っていくことが一番大切なのではないでしょうか。見解をお尋ねします。

答 ごみの減量の取り組みにおいて重要なことは、一人一人の小さな取り組みが大きな成果を上げていることを市民に知ってもらうことであります。できるだけ多くの市民に一人の取り組みから変わることを理解していただき、実践してもらえよう、周知、啓発してまいりたい。対策連絡会を脱退した諏訪部自治会と下沖振興組合の皆様にもご理解いただけるよう、丁寧にご説明してまいりたいと考えております。まずはその機会がいただけるよう、引き続き諏訪部自治会と下沖振興組合に対し住民説明会の開催をお願いしていく。

答(市長) 真田あるいは半過地区の大型処理機取り組みにおいて、私は本当に高く評価をさせていただいているところでございます。今後も引き続き市民の皆様全員のご理解、ご協力をお願いしながら、市といたしましては、広域連合と連携して資源循環型施設建設に関する地域の皆様との早期合意形成に向け進めていく必要があると思っておりますし、オール市民というお話がございました。私は、これはオール上田地域住民の共通課題でありますので、そういった幅広い範囲での皆様いろいろな意味で参加をしていただいたり意識高揚に努めて、これに向けての全力投球をしていくべきであろう、このように考えております。

上田市社会就労センター条例廃止等

条例廃止
条例改正

上田市が運営し、高齢者や障がいのある方が働く上田市社会就労センターについて、「上田市社会就労センターありかた検討委員会」からの「すでに事業展開している社会福祉法人やNPO法人等民間事業所の方が優位性があるため、民間事業者による運営を優先すべき」との答申を受け、平成30年4月から社会就労センターの経営を民間に移譲することに伴い条例廃止等を行う。

上田市議会 議会報告会

毎年実施されています上田市議会議会報告会が実施されました。正副議長を除く28名の議員を6班分け、市内6か所で通常の議会報告会を実施し、佐藤のりゆきは上田市役所本庁舎6階会場を担当しました。また、5常任委員会がそれぞれテーマ、懇談団体・地域などを決め実施するテーマ別車座集会所も常任委員会毎に実施しました。佐藤のりゆきが所属する環境建設委員会は開催テーマを「地域公共交通を考える～武石地域から公共交通のあり方を探る～」と題し、武石地域において武石地域で実施しているデマンド交通について、武石地域の18名の市民の皆さんにご参加をいただき開催いたしました。環境建設委員会では、本年度、地域公共交通の取り組みについて、地域公共交通優良団体大臣賞を受賞した*岡山県玉野市を視察し、非常に取り組みが参考になったことから車座集会所のなかで玉野市の取り組みをご紹介します。ご参加いただいた皆さんと意見交換を行いました。ご参加いただいた皆さんと非常に活発な意見交換が行われ、交通弱者を守るための地域公共交通の取り組みの重要性が改めて感じられる有意義な意見交換となりました。この様子が丸子ケーブルビジョンで放送されるなどしたこと、丸子まちづくり会議交通部会からは玉野市視察の報告、住みよい武石をつくる会健康福祉体育部会からは地域交通に関する懇談の要請があり、それぞれ委員会として対応させていただきました。こうした依頼は議会のなかでも珍しいことで、やはり地域公共交通の取り組みについては地域の大きな課題であることを実感いたしました。佐藤のりゆきは、真田公共交通利用促進協議会に所属していた経験から地域公共交通については取り組みを強めている事項ではありますが、今後更に取り組みを強めてまいります。



*岡山県玉野市の地域公共交通の取り組み

玉野市は人口約8万人の都市。市が赤字分を負担していた路線バスについて、運送人員が少なく、赤字も多いという、増員が見込めない路線について、代替交通として乗り合いタクシーを用意したうえで路線バスを廃止。これにより、利用者の利便性を向上したうえで赤字の解消も実現しました。路線バスの廃止にあたっては、住民・利用者から当初反対があったものの、担当職員が何回も丁寧な説明し、住民・利用者との信頼を構築した結果、住民・利用者の了承を得たうえで路線バスを廃止しました。この取り組みが国土交通省より非常に高い評価を得て、平成28年に地域公共交通優良団体大臣賞を受賞しました。また、公共交通の再構築に向け多様な取り組みをした当時の担当職員は、国土交通省より「地域公共交通アドバイザー」として認定を受け、全国各地で講演・指導などを行っています。環境建設委員会も視察の際、この地域公共交通アドバイザーの職員の方から説明を受けました。



玉野市乗り合いタクシー
通常運行のタクシーを利用

佐藤のりゆき 出来事

私が住む真田自治会の公民館が、耐震強度の問題から新築され、平成29年12月新しい公民館に引っ越しました。真田自治会では、以前より少しずつ積み立てをしていたことで、負担金や借入れなしで建設ができました。コミュニティルームなども整備され、地域のコミュニティ施設として更に機能的に整備されました。

